

**「大学における研究指導のあり方と課題」千葉大学  
看護学部 正木治恵教授**

著者	正木 治恵
雑誌名	学長特別研究費研究報告書
巻	17
ページ	83-87
発行年	2006-06
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10631/857">http://hdl.handle.net/10631/857</a>

「大学院における研究指導のあり方と課題」千葉大学看護学部 正木治恵 教授

平成 17 年 10 月 17 日（月）

文部科学省の高等教育課において、看護系大学、大学院の設置に関する指導をされた経験と、千葉大学での研究指導の実績をもとにして、18 年度に開設される本大学修士課程のあり方、課題につながる現実的かつ、身近な示唆に富む内容でした。大学の目的は「学問を進歩」させること、看護の高等教育は、社会のヘルス・ニーズに応えること、そして大学と実践の場の協働すなわち、教育（人材育成）、研究（知の構築）、実践（質の向上）が期待する成果であることを確認することが出来ました。

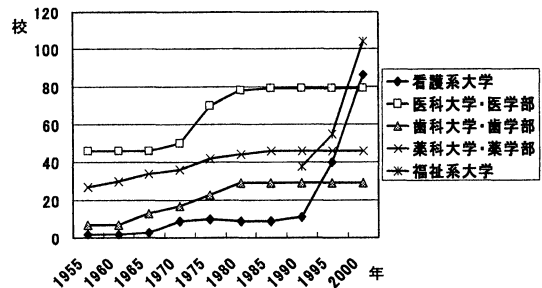
修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とし（大学院設置基準—文部省令）、研究指導では、1) 研究のよい師たらん 2) 看護学研究の徹底的訓練 3) 夢と志の育成（尊重） 4) 研究推進環境づくり—研究関連文献へのアクセス・研究発表機会の提供・国際研究メンバーとの交流・異分野や他大学研究者（院生）との交流—の重要性を強調し、以下の具体的セミナーの例を示した。

- ①リーディングセミナー：当該題目の関連基本文献を広く読み、大学院生同士で報告し合う。
- ②リサーチセミナー：大学院生の創造的研究の才能を育成し、テストするために開設される。例；毎週リストされた基本的な研究文献を読むことを要請し、報告させ、自分の論文の出版以降なされた研究を紹介し、それに批判的コメントを付け加える。
- ③現在われわれが所有している知識がどれだけのものかを知り、その上でわれわれ自身が創造的に貢献出来る事柄が如何なるものであり得るかを明確に確認する作業が基本になっている
- ④日本には未だ十分には根付いていない学問研究の徹底的訓練—専門的完成への志向である。最後に論文審査のあり方に関する現実的な課題と示唆を示してくれた。（報告 柿川房子）

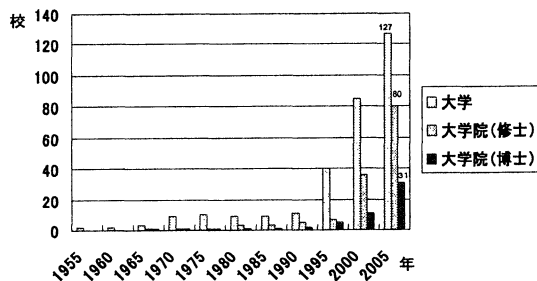
## 大学院における研究指導のあり方と課題

正木治恵(千葉大学看護学部)

## 大学(学部)数の推移



## 看護系大学・大学院数の推移



## 看護の高等教育化の成果 (大学と実践の場の協働)

- ・ 教育(人材育成)
- ・ 研究(知の構築)
- ・ 実践(質向上)

社会のヘルス・ニーズに応える

## 大学院設置基準 (文部省令)

- ・ 第一章 第三条  
修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。
- ・ 第一章 第四条  
博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

## 学問論

(佐々木力:学問論 ポストモダニズムに抗して, 東京大学出版会, 1997)

- ・ 大学の目的は「学問を進歩」させること
- ・ 研究を第一義とする:創造的研究
- ・ 創造的才能の制度化の二つの類型
  - ①種々の研究所や科学アカデミー(教育と密接に結びつくことなく、研究者の活動を財政的に保護・支援する施設(古代ギリシャ~18世紀))
  - ②近代大学のように、研究と教育が密接不可分のものとして結合されている制度(19世紀~)
  - ウルトラエリート→ 英雄→ 大衆的秀才

### 若手研究者の育成(大学院生のための セミナー) (佐々木力:学問論、1997より)

- A) リーディングセミナー:当該題目の関連基本文献を広く読み、大学院生同士で報告し合う。
- B) リサーチセミナー:大学院生の創造的研究の才能を育成し、テストするために開設される。  
(例;毎週リストされた基本的な研究文献を読むことを要請し、報告させ、自分の論文の出版以降なされた研究を紹介し、それに批判的コメントを付け加える)

### 若手研究者の育成(大学院生のための セミナー) (佐々木力:学問論、1997より)

- C) 現在われわれが所有している知識がどれだけのものかを知り、その上でわれわれ自身が創造的に貢献できることがらがいかなるものでありえるかを明確に確認する作業が基本になっている
- D) 日本には未だ十分には根付いていない学問研究の徹底的訓練(専門的完成への志向)

### 看護学研究の徹底的訓練とは

### 看護学の研究

(ドナ・ディア著、小島道代他訳:看護研究、日本看護協会出版会、1984)

- 看護研究の目的:専門的、実践的知識を開発し、患者のケアを進歩させること(臨床判断の質を高めること)
- 前提
  - 看護の実践は意識的に行われるということ(実践者が自らの行為に対して責任をもつ)
  - 看護は実践的専門職であるということ(看護の諸活動は目的を持ち、目標に向かっている。知識は何かのためのもの)

### 看護研究としての研究問題の条件

(ドナ・ディア著、小島道代他訳:看護研究、日本看護協会出版会、1984)

1. 患者ケアに影響する重要な差であること
2. 看護理論(看護知識)の開発に寄与する可能性をもっていること
3. 看護(師)が直接かかわってコントロールすることができる現象であること

### 看護ケアの特徴

(看護介入とその効果の因果関係を証明しにくい理由)

- 看護ケアの多義性
- 事例の固有性
- 身体性をそなえた行為
- 対象者は看護効果を意識化しにくい

看護現象の複雑性

### 研究データ例

(秋元典子:質的看護研究においてリッチなデータを得るための手法—  
広汎子宮全摘出術を経験する子宮がん患者に関する研究過程から  
—Quality Nursing,10(1):2004)

【得られてくるデータが対象者と研究者との相互作用によって異なってくるという事実】

- ・ がんと言われた時どうして私がつて多くの人は感じると聞いたのですが、私はああ・・・そうかって感じた。普通なら予測もできない自分の結末を、ある程度見せてくれるような病名であったことにむしろ落ちついたのです。(52歳、女性)

### 研究データ例

(秋元典子:質的看護研究においてリッチなデータを得るための手法—  
広汎子宮全摘出術を経験する子宮がん患者に関する研究過程から  
—Quality Nursing,10(1):2004)

- ・ 導尿の時ね、ちょっとしたことなんだけど消毒液たくさん使う時、終わった後で拭いてくださらなかった時、台から降りると内股をその液が伝わって足の下まで流れるのよね。冷たい液がタラって流れる瞬間、もう本当に惨めで。ぼろっと涙が流れてね。がんになって負け犬のような気持ちにもなって、人生の敗北者みたいな気にもなる(中略)。そんなのにこんな惨めなことがあると、違ひ上がれないような気持ちにもなるんですよ。がんになった患者でも最大限の敬意をもって接してほしいんです。大事にしてもらいたい。体は傷つき、こころも傷つき、でもどんな状況でもやっぱり人間ですから。(36歳、女性)

### 複雑な看護現象を研究にしていくために

- ・ 看護現象に純粋な関心をそそぐ
- ・ 単純な疑問(わかりたいこと)を持つ
- ・ 先鋭な問い(リサーチクエスション)にしていく
- ・ 現象を丁寧に観察し、記述する
- ・ 一つひとつのデータと真摯につきあい、本質を見いだす
- ・ 論理的に構成する

質的研究の真実性(trustworthiness)を確保するための基準  
(ホロウェイ・ウィラー著、野口美和子監訳:ナースのための質的研究入門、医学書院、2000)

1. 信用可能性(credibility):正確な記述の保証
2. 移転可能性(transferability):研究結果を他の場・集団に適用できる可能性
3. 明解性(dependability):研究プロセスが一定水準を保ち、明確である
4. 確認可能性(confirmability):結論や解釈がデータから直接引き出されていることが読み手にも確認できる

### 質的研究の批判的吟味

(EBN users' guide, EBNURSING,3(4), 2003)

- ・ 結果は妥当か?
  - リサーチクエスション (RQ)は明確で具体的に述べられているか?
  - 研究デザインはRQ に対して適切か?
  - 対象選択の方法はRQと研究デザインに対して適切か?
  - データは系統的に収集され、処理されているか?
  - データは適切に解析されているか?
- ・ 結果は何か?
  - 結果の記載は十分か?
- ・ 結果は患者ケアにどのように適用できるか?
  - この研究は実践においてどのような意味と重要性をもつか?
  - この研究は実践の場での状況理解に役立つか?
  - この研究は実践に関する知識を高めるか?

### 千葉大学大学院看護学研究科

- ・ 専攻、入学定員(収容定員)、及び修業年限
  - 看護学専攻 博士前期課程25名(50名) 2年
  - 看護学専攻 博士後期課程 9名(27名) 3年
  - 看護システム管理学専攻 修士課程 6名(18名) 3年
- ・ 審査体制(博士論文)
  - ① 研究計画審査
  - ② 倫理審査
  - ③ 予備審査
  - ④ 本審査

## 研究指導

- 研究計画(目的と研究デザイン)
  - 先鋭なリサーチクエッションと具体的計画(研究倫理を含む)
- データ収集
  - リッチなデータを得る
- データ分析
  - 妥当な分析方法と分析の信頼性(データに基づく解釈)
- 結果の記述
  - 論理的で、正確かつ十分な記述
- 考察
  - 研究成果の座標の確認

**研究をやり遂げる原動力**

## 研究発表

- 学位論文発表会
  - 論文審査目的、研究の意義を伝える
- 学会発表
  - 他者にわかりやすく伝える、整理ができる、意見交換により新たな気づきを得る、仲間を得る
- 論文投稿
  - 査読を受ける、自己評価できる(研究で何が問題で何が必要なのかわかる)、志を保つ、業績を積む、仲間が増える

## 第一線の研究者になるための五つの条件

(土肥義治:君は、夢を語るか?夢を実現する基礎体力があるか?  
有馬朗人監修研究者、東京図書、2000)

- 一. よい師とめぐり合うこと、自分で環境を生かすこと
- 二. 夢と志を持つ
- 三. 研究発表はきちんと行う:論文を書くことで自己評価できる、研究者の義務(公的研究費を使うため)
- 四. 第一線の研究者国際コミュニティメンバーになる
- 五. 異分野の研究者と積極的に交流する

## 大学院における研究指導のあり方と課題

1. 看護学研究の徹底的訓練
2. 研究のよい師たらん
3. 夢と志の育成(尊重)
4. 研究推進環境づくり
  1. 研究関連文献へのアクセス
  2. 研究発表機会の提供
  3. 国際研究メンバーとの交流
  4. 異分野や他大学研究者(院生)との交流